世宝節（ゆたからぶし）

三下

「五を入れて繰り返す

七 中 工 五 七 中 七 五 工 中 七 四 五 七 四 上 老

四 合 老 上 四 五 老 上 四 五 中 七

まゆなかる やし

五 〇 五 中 五 七 中 工 五 七 中 七 五 工 中 七

が いみにうくさりてい

四 五 七 四 五 七 中 工 五 七 中 七 五 工 中 七

よ

四 五 七 四 上 四 老 合 上 合 老 四 五

さみていくいしさや

四 中 工 七 五 工 五 中 上 四 五 七 四 上

ありがしがた

四 老 合 五 七 四 中 五 四 中 工 中 上 四 五 七

ジントヤウー ありがしがた

四 五 七 中 工 五 七 中 七 五 工 中 七 四 五 七

四 上 老 四

世宝節（ゆたからぶし）

三下

一、真夜中（まゆなか）るやしが
夢に起くされていよ
覚めてい恋しさや　ありが姿
（ジントヨー　ありが姿）

真夜中でこそあるが
夢に起こされて
目覚めて恋しいのは
あの人の姿

二、一人手枕に
明かす夜ぬちらさヨー
無蔵（んじょ）が手枕に
明かち見ぶさー
（サヨナー　明けち見ぶさ）

一人手枕で
明かす夜の辛さ
あの人（彼女）の手枕で
夜を明かしてみたい

三、無蔵が寝座敷に
梅ぬ花咲かちヨー
うぐゐしになやい
偲（しぬ）で見みぶさ
（ジントヨー　偲で見ぶさ）

貴女の寝間に
梅の花（を）咲かせ
鶯になって忍んで（行って）
みたいものだ

四、鳥やちょん飛ばん
島とうめてい
無蔵とう二人加那がなとぅ
暮ち見みぶさー
（サヨナー　暮ち見みぶさー）

鳥ですら飛ばない
島求めて貴女と二人
仲良く暮らしたい